

第 1 7 2 回防衛調達審議会議事要旨

1 日時

令和 3 年 1 2 月 1 0 日（金） 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 4 0 分

2 場所

防衛省庁舎 A 棟 2 階講堂

3 出席者

（委 員）

藤川会長代理、片岡委員、西谷委員、星委員

（防衛省）

防衛装備庁 春日原長官官房審議官、萬浪装備政策部長、内藤調達管理部長、調達事業部長代理需品調達官、岩脇監察監査・評価官（事務局）

統幕首席後方補給官代理後方補給官、陸幕装備計画部長代理装備計画課補給管理班長、海幕装備計画部長代理装備需品課長、坂本空幕装備計画部長

4 議題

- （1）随意契約に係るサンプリング調査審議（令和 2 年度海上自衛隊艦船補給処）
- （2） 1 者応札・ 1 者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（令和 2 年度海上自衛隊）
- （3）次回の日程等

5 議事概要

- （1）随意契約に係るサンプリング調査審議（令和 2 年度海上自衛隊艦船補給処）

令和 2 年度に海上自衛隊艦船補給処が締結した契約の中から、サンプリング調査審議の対象として委員が抽出した「武器等用部品（専用品）「レーダ OPS-24（ ）用 RECEIVER TRANSMITTER, RADAR」外」について審議を行った。

（武器等用部品（専用品）「レーダ OPS-24（ ）用 RECEIVER TRANSMITTER, RADAR」外の契約の概要）

本件は、海上自衛隊の護衛艦において、対空搜索レーダとして搭載されている、レーダ OPS-24 及び OPS-24 B に使用する部品を調達するものである。

【事前調査における論点等】

- ① 平成 29 年度以降の単価の差について説明されたい。
- ② 見積精度 UP のための発注先に対する現場での取り組みがあれば示されたい。

【本審議】

事前調査の論点について

(資料に基づき防衛省側から説明)

事前調査の論点①及び②について

委：令和元年度から 2 年度にかけて加工費率が下がったのはなぜか。

防：作業部門によって理由は異なるが、作業時間計上方法の変更や年間作業量の増加が影響している。

委：会社見積と計算価格の製造原価内訳を比較すると、差異が大きい項目とそうではない項目があるが、なぜか。

防：計算の際、過去の原価監査における見積と実績の差を考慮したためである。

委：会社見積と計算価格とで、一般管理及び販売費率に差異があるのはなぜか。

防：交際費など調達物品等に直接関連のない項目を控除しているためである。

(2) 1 者応札・1 者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（令和 2 年度海上自衛隊）

【1 者応札案件及び仕様書等に係るサンプリング調査審議案件 2 件】

- ① 試験用情報収集器材（高周波数帯）
- ② ウィルスチェックツール ほか 5 件

【1 者応募案件に係るサンプリング調査審議案件 2 件】

- ③ 艦艇の技術維持活動（艦船の部）ほか
- ④ 潜水艦の省人化（艦制御系の操作・監視・制御）に関する研究（その 1）

【仕様書等に係るサンプリング調査審議（複数者応札）案件 3 件】

- ⑤ 防弾盾, 3 型
- ⑥⑦ （輸入）航空機部品（部隊整備及び定期修理用）DETECTOR, ICE

【事前調査における論点】

① 試験用情報収集器材（高周波数帯）

- ・同等品の許容について、具体的に作業を進めて欲しい。

② ウィルスチェックツール ほか5件

- ・装備品納入に際し、サイバー攻撃のリスクがあるような物品については、トレーサビリティを可能とするような仕様にする必要ではないか。本件は分割発注して単に安くすれば良いものでもないため、価格とセキュリティのバランスを見ながら今後の発注体制について考えているのか示されたい。
- ・発注について、分離分割発注を含めて、事前に検討された内容について示されたい。

③ 艦艇の技術維持活動（艦船の部）ほか

- ・公募に必要とされる多大な労力と専門知識について、官側から受注者側にサポートすることはできないか。
- ・艦種によって応募する会社が変わるという理解でよろしいか。
- ・艦艇における製品又は部品としての統合度の高さと契約方式の関係を説明されたい。

④ 潜水艦の省人化（艦制御系の操作・監視・制御）に関する研究（その1）

- ・本研究試作は新規の潜水艦に適用するのか、それとも既存の潜水艦に適用するのか、説明されたい。

⑤ 防弾盾, 3型

- ・調達前の時点で同等品の調査を実施したのか。実施した場合はその結果を示されたい。
- ・過年度契約実績（件名、品名、数量、応札者、応札金額）及び他省庁の契約実績と比較して、単価の変動を説明されたい。
- ・今後の改善方策として、同等品の国際的な標準価格を参照するべく情報収集に努めることを盛り込めないか。

⑥⑦ （輸入）航空機部品（部隊整備及び定期修理用）DETECTOR, ICE

- ・民間機を含めた他機種との一般的な相場価格の比較をしてほしい。
- ・過去の調達実績（件名、品名、数量、応札者、応札金額）を示されたい。
- ・応札者の概要を示されたい。また、落札できなかった企業の応札意図を分かる

範囲で示されたい。

【本審議】

① 試験用情報収集器材（高周波数帯）

委：同等品許容の実現可能性はあるのか。

防：現時点で定量的に示すことは難しいが、今後の運用実績等を踏まえ、まずは検討したい。

② ウィルスチェックツール ほか5件

委：セキュリティリスクがあるので分離分割発注が良いのかどうかは難しいところと考える。中小企業者の受注機会拡大とのバランスも取って進めて欲しい。

防：承知した。

③ 艦艇の技術維持活動（艦船の部）ほか

委：本契約の成果によって、必要のない部品を交換するような整備作業になってしまうということはないか。

防：本契約はまさに、本当に必要なものは何か、整備の間隔及び必要性などを分析する契約である。合わせて、民間では一般的な、金額の適正性などを第三者機関が確認するモニタリング契約を平行して実施することを考えている。

委：現在、海自では、搭載機器ごとの整備ではなく、艦全体をシステムとしてとらえて整備する艦艇は多いのか。

防：まだない。これから就役する艦艇に適用すべく作業中である。

④ 潜水艦の省人化（艦制御系の操作・監視・制御）に関する研究（その1）

委：今回の研究結果が早い段階で適用されていくと考えてよろしいか。

防：基本的にはそのとおりである。

⑤ 防弾盾，3型

委：契約数量の多寡は単価に影響しないのか。

防：商慣習があるようで、数量の多寡が単価に影響しない。

委：同等品として採用しなかった製品について、不採用の理由は何か。

防：安全性のほか、重さなど、取り回しに難があった。

⑥⑦ （輸入）航空機部品（部隊整備及び定期修理用）DETECTOR, ICE

委：機体の耐用年数とライフサイクルコストの観点で、本契約物品の必要数の調達計画はどうか。

防：退役までに必要な個数を見積もり、本契約で購入したものである。

委：本契約物品は他の機種には付いていないのか。

防：同じ部品を使っている機種はない。

委：特注なので高くても仕方ないということか。ロイヤリティを支払って国内で製造するとどのくらいかかるのか検討してはどうか。

防：検討したい。

（３）次回の日程等

今回は２月１６日（水）の開催の予定。詳細については、事務局から後日連絡。